

千葉工業大学 学生員 ○根岸 哲

千葉工業大学 正会員 篠田 裕

1. はじめに

地球環境の改善の目的の一つである「沙漠緑化」に関する資料を系統的に収集し、パソコンを利用したデータベースに入力することを考えた。沙漠に関する論文や資料などの抄録を入力してデータベースを構築することで、その研究動向や実践活動の情報を知ることができる。

本研究室では、「沙漠緑化」と「草炭」に関する文献を収集しているが、ここでは「沙漠緑化」について報告する。

2. 対象試料

日本沙漠学会・乾燥地農学分科会が発行している機関紙「C A D A L ニュース」のNEWS REVIEWを対象とし、創刊号(1992年10月)から第24号(1996年12月)までの文献抄録 603件を、MS-DOS上のデータベースソフト(桐 Ver. 5)のアプリケーションソフト(一括処理プログラム)の「情報資料室」を改変したものに入力した。

3. データベースプログラム

本研究で使用した「情報資料室」のプログラム構成を図1に示す。データベースソフトの使い勝手の良し悪しは、文献の追加入力・編集・外部出力(プリントアウト)の部分よりも、目的とした文献を検索するために多大な労を要さないことであろう。この目的を達成するためには、キーワードの設定が最も重要であるが、このプログラムではシソーラス(同義語)辞書を用いることで、検索者の負担の軽減化をはかっている。

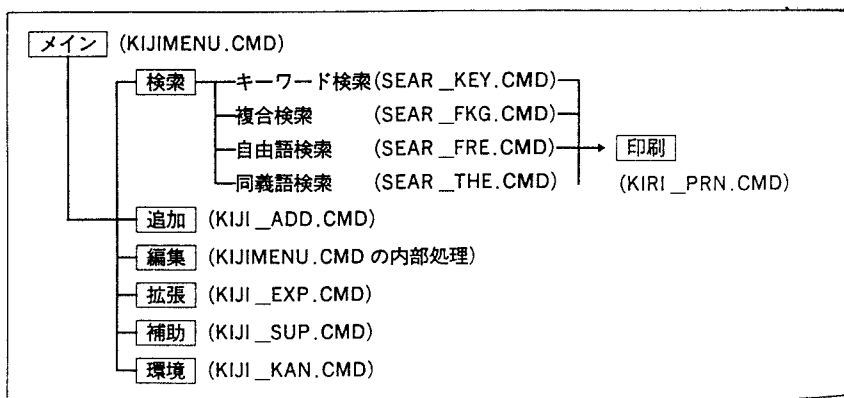


図1 情報資料室のプログラム構成

4. データベースの内容

今回集録したデータベースを例として、年度別件数、媒体別件数、テーマ別件数を、図2～図4に示す。

(1) 年度別件数

対象とした資料が、1992年10月からの発行なので、1993年から1996年を比較すると、ほぼ横ばいの件数となっている。1995年は、阪神大震災の発生の影響を受けたためか若干少ない。

(2) 媒体別件数

業界紙が最も多く、次いで全国紙の件数が多い。これは建設業や生産工業界が、沙漠の緑化の技術開発などに積極的に取り組んでいることと、これらの話題が全国的な関心事となっていることを裏付けている。雑誌・論文集・講演集が少ないが、技術的な問題や実践活動は、論文としてまとまりにくいということだろうか。

(3) テーマ別件数

「沙漠緑化の動き」が最も多いが、これは、そういった観点から資料を収集しているから、当然ともいえることであろう。中国・エジプト・ジブチなど、民間ボランティアによる植林活動も広く知られるようになったことを裏付けている。こういった民間レベルの活動が「沙漠緑化の技術」や「沙漠の解明」に波及してくると考えられる。募金の呼びかけなどの記事も多いことから、沙漠を緑化するためには多大な費用がかかることがうかがえる。

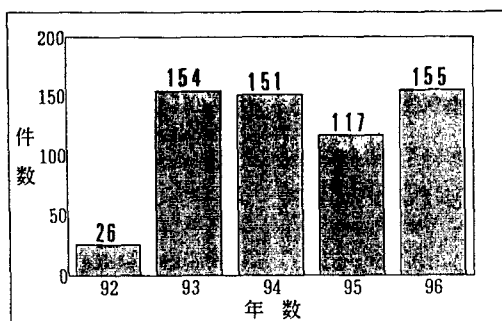


図2 年度別件数のグラフ

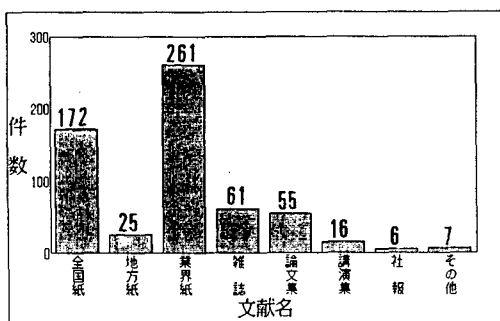


図3 媒体別件数のグラフ

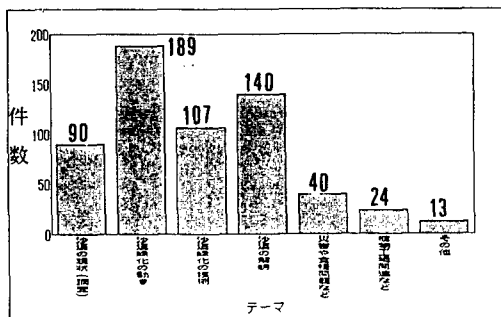


図4 テーマ別件数のグラフ

5. あとがき

本報告では、文献抄録による資料を分析したが、さらに広く情報を収集する必要性を感じている。これらのデータベースの構築は、個人レベルの努力では限界があるので、インターネット等を通じた、複数の機関による組織的な収集・情報交換が望まれる。「沙漠研究に必要なデータは何か」、「何をどのようにデータベース化するか」が、大きな問題である。「草炭」に関するデータ収集中なので、機会を改めて公表したいと考えている。